

日本共産党は 都議会野党第一党

定数127 2025年2月10日現在



日本共産党は3回の都議選で連続躍進し、国会に換算すれば100議席に相当する野党第一党。都政のチェック機能を発揮するとともに、都民の運動と力を合わせ、政党・会派の共同も広げて、この4年間で、**学校給食費無償化、シルバーパス値下げ、補聴器購入費助成の拡充、子ども医療費助成の18歳までの拡大と所得制限撤廃などを実現**しました。日本共産党がさらに伸びれば、もっと都民の願いが届きます。

**バブル期を超える
税収増で都予算17兆円**

都民のために活用します

物価高騰から都民生活を守る緊急要求

- ① 1人12万円の中小企業賃上げ支援、公契約条例創設
- ② 上下水道料金10%値下げ
- ③ 国保税を1人3万円引き下げ、18歳まで無料化
- ④ シルバーパス無料化、電車・バスの子どもの料金を18歳まで拡大
- ⑤ 緊急に100万世帯へ月1万円の家賃補助

住宅費高騰の原因である規制緩和と乱開発、不動産投機にメスを。公的住宅の供給を拡充。

バス路線を守り増やします

運転手不足解消へ事業者支援。住民の「交通権」を守ります

調布・狛江に保健所復活を 23区との「多摩格差」解消へ

他産業より月10万円安い
介護労働者の待遇を改善

ジェンダー平等へ
痴漢・盗撮ゼロの東京に

PFAS汚染源の
米軍基地調査を

お問い合わせ ▶▶ ボランティアの応募もこちらから

📍 調布市国領町5-5-2-1F

☎ 042-480-0860

☎ 042-485-3161

🌐 お問い合わせフォーム



民報こまえ

2025年春夏号外 日本共産党狛江市委員会の見解を紹介します。
発行：民報こまえ社 岩戸北1-10-6甲武ビル1階 ☎03-3488-2977

狛江から

こんどこそ都政へ

田中

元都議会議員（調布市・狛江市選出）

都議4年・市議12年・国会議員地元秘書2年

暮らしの声を届けて18年



6月の都議選で、調布・狛江（北多摩3区）から再び都政に挑戦します。いま、「物価高騰で生活が大変」「家賃補助がほしい」「バス便が無くなり医者に行くのも大変」など、市民の悲鳴がたくさん寄せられています。

前回の選挙では**354票差**で議席にあと一步。**調布・狛江の3議席を独占した自民・公明・都民ファースト**は、いっしょになって都議会自民党の裏金・脱税疑惑の真相解明に背をむけ、小池都知事と「世界最大級の噴水」に税金をつぎ込んでいます。

都民の暮らしを守りぬく「ホンモノの改革の党」日本共産党の田中とも子が、みなさんの声を全力で都政に届けます。



**LINE
公式アカウント
友達募集**

日本共産党

プロフィール●田中智子（たなかともこ）▼狛江市西野川・神代団地在住▼1957年山形県生まれ。教師をこころざし、巫女として働きながら國學院大學Ⅱ部文学部卒▼子ども3人を育てながら都議に初当選（1期）。その後転居し狛江市議（通算4期）。19年狛江市長選に挑戦▼前回21年都議選では354票差で次点▼現在、党都委員、調布在住の山添拓参議院議員の地元秘書▼趣味は映画鑑賞、読書。

都議4年・市議12年・国会議員地元秘書2年

市民の声を届けて実現



1997～
都議4年

子ども医療費助成実現

都議会で「生活か子どもの病院か」と選択する親の気持ちがわかりますか」と求め(写真)、就学前まで助成が実現。都民の粘り強い運動で2023年、18歳まで無料になりました。政治は変わると実感しています。

無料だったシルバーパス 自民・公明の有料化にNO

都議会自民・公明は2000年、「シルバーパスの現行どおりの存続」との公約を投げ捨て、全面有料化。当時都議だった田中とも子はつよく反対。「何がぜいたくといえまづ福祉」という石原都政と対決しました。



2007～
狛江市議12年

豪雨時、下水氾濫をふせぐ 都予算10倍化 次は老朽管に

2019年の台風豪雨で市内各地で内水氾濫が発生。党市議団と都議団で下水対策を市・都・国(写真)に求めた結果、都の助成額が10倍化!大型排水ポンプの建設が進んでいます。

介護の改善へ シルバー相談室 実現

介護サービスの改善を求める声を市議会でとりあげ、多摩川住宅近くに「シルバー相談室」を実現(写真)。新型コロナ対策では市長への申し入れを重ね、ひとり親家庭への給付金などが実現しました。



2023～
国会議員地元秘書2年

学費値上げ反対・奨学金 返済支援を 若者とともに

吉良よし子・山添拓事務所スタッフ(地元秘書)として若いみなさんの声を街頭であつめる(写真)など国会議員を支えてきました。事務所をあげて高すぎる大学の授業料の値上げ反対、重い奨学金返済の支援を求めてきました。



党政策委員長
(調布在住)
山添拓



道路陥没 住民監視監視

費用は5兆円以上

外環道工事中止を 財源は老朽インフラ対策に

外環道トンネル工事による陥没事故で、現在までに数十世帯が転居を強いられています。さらに事業者が人権無視の住民監視・盗撮・蔑視をしていたことや、これまでの費用負担が累計2.6兆円、あらたに湾岸道路までの延伸に3兆円以上かかることが発覚。いまずぐ中止して、上下水道など老朽インフラ対策を強化すべきです。



2020年
東つじヶ丘

7月
参院選

#比例は日本共産党
田中さんと共にがんばります

党 参議院
議員団

東京選出
吉良よし子



比例選出
小池晃



田中とも子
さんを
応援します



前狛江市議員
市原広子



元狛江市長
矢野ゆたか

田中とも子の歩んだ道

雪国生まれ、三姉妹の末娘

田中さんは山形県の豪雪地帯・飽海郡松山町(現酒田市)の農家で三姉妹の末娘として生まれました。「働いても働いても楽にならない」と話す母親の姿を見て、社会の矛盾を感じながら育ちました。



「こんな差別があつていいのか」

被差別部落を題材にした小説「橋のない川」(住井すゑ)を読み、「同じ人間なのにこんな差別があつていいのか」と大きな衝撃を受けました。上京して働きながら大学夜間部に通う中で、部落解放運動の先頭に日本共産党が立ってきたことを知り、入党しました。

調布・狛江から初の日本共産党の都議に

卒業して民間企業で働いたあと、1997年の都議選に立候補し初当選。調布・狛江地域から初の日本共産党の都議として、調布狛江の保健所の存続運動やシルバーパス廃止反対などに奮闘しました。

セクハラは許されない 市民の要請に応え狛江市長選に立候補

2007年からは4期12年、狛江市議会議員に。前市長がセクハラ事件で辞職したことをうけ、セクハラを追及してきた多くの市民の要請に応じて、2018年に市長選に立候補しました。あらゆる人権侵害・差別をゆるさないためにたたかい続けています。

